

TECHVAN



Power Platform

活用例で解説する基礎知識

Power AppsとPower Automate初心者向けガイド

はじめに

皆さんの会社が日々行うルーティン作業は何でしょうか？

勤怠登録、営業売上報告、データ入力、帳票ファイルの生成、それに伴う申請と承認作業etc.

これらの作業をもっと簡素化したい、効率化したいと思っても、新しいシステムを導入するには時間とお金と人手が必要です。

Power AppsとPower Automateは、プログラミングの知識がなくても自分で業務アプリを簡単に作成、自動化することができるサービスです。

アプリを使って日々のルーチン作業を自動化することで、人的ミスを減らしたり、作業スピードを上げたり、業務の属人化を解消したりとさまざまな業務改善に繋がります。

今回はPower AppsとPower Automateの特徴について、事例を交えながらご紹介いたします。

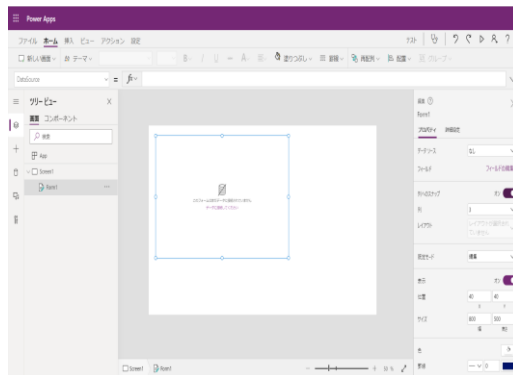
CONTENS

Microsoft Power Platformについて	2
Power AppsとPower Automateの特徴	
Power Appsの特徴	4
Power Automateの特徴	6
社内アプリ作成時のよくあるお悩み	8
【作成例】Power AppsとPower Automateを使ったアプリの作成	
Power AppsとPower Automateの活用例	10
承認フローの処理イメージ	11
Power Appsで申請画面を作成	12
Power Automateでフローを作成	13
導入効果	14
テクバンのMicrosoft Power Apps /Power Automateサービス	15

選べる3つの主要コンポーネント

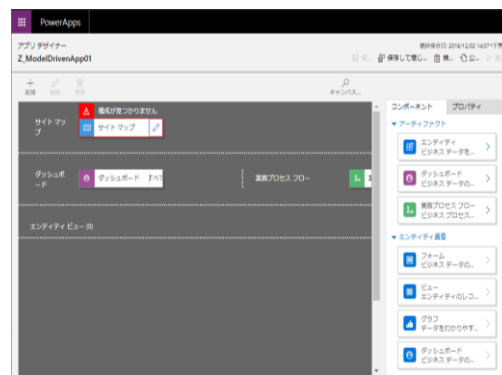
Power Appsでは、以下の3種類のアプリケーションを作ることができます。

キャンバスアプリ



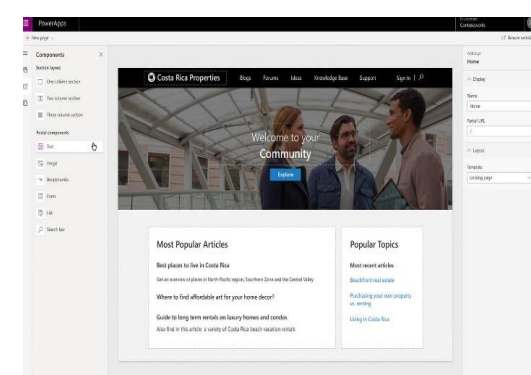
その名のとおりキャンバスに絵を描くように作成できます。レイアウトの容易な変更、あらかじめ用意されたパーツで画面に入れる要素の配置などが可能です。またローコード、ノンコードでアプリ作成ができます。デザイン性や汎用性に優れ、主にユーザーが利用するアプリ作成に向いています。

モデル駆動型アプリ



Microsoftのデータベース Dataverseの機能がフル活用できます。データを効率的に連携できるので、フォームやグラフ、ダッシュボードなどを用いて、業務モデルに即した一貫性のあるアプリを作成できます。短時間で作成できるので、主に管理者向けアプリの作成に向いています。

ポータル



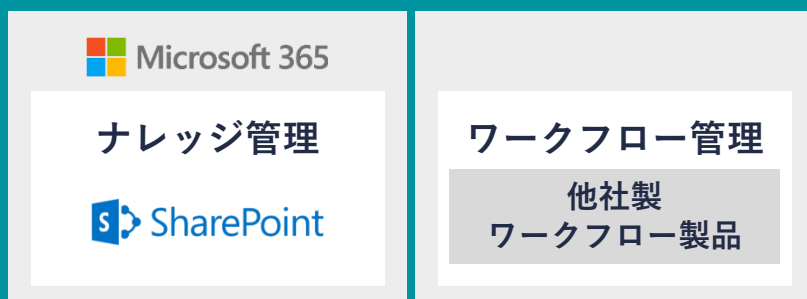
Microsoftアカウントの他、外部認証（Facebookなど）でログインしたユーザーだけが閲覧できるユーザー専用サイトとして作成できます。主にBtoB(C)向けに情報発信を行うためのWebサイト形式のアプリです。

Power AppsとPower Automateの活用例

例：承認ワークフローアプリの作成

Before

従来、生産管理におけるナレッジ管理と各種ワークフロー管理は個別のシステムで運用していました。しかし事業の拡大や変革により中身が煩雑化、またMicrosoft 365 環境を利用していながら、その高い順応性を活かしきれいでありませんでした。各サービスに必要なアカウント管理も負担が大きく、セキュリティ面の不安もありました。



- × ナレッジ管理やワークフロー運用が複雑
- × システム運用が現状に合わず負荷が高い
- × ログイン認証が複数回必要で利便性低い
- × ライセンスコストが二重で発生

After

ナレッジ管理を同じMicrosoft 365配下のPower AppsとPower Automateに移行することで、アカウントを一元化し、フロー体制を簡素化します。また、Microsoft 365共通のデータベース領域であるDataverseを使うことで、SharePointリストよりも運用負荷を下げるすることができます。



- ワークフロー管理を簡素化
- シングルサインオンで一元管理
- ライセンスコストを一本化